

テーマ③ 自由題

つづき

# タバコは薬事法でなぜ禁止されないのか

尼崎市 吉田 静雄

タバコは習慣性があり、麻薬と同じである。タバコ依存症という病名まである。タバコのタールに多くの発がん物質が含まれていることは、化学的にも証明されている。

肺がんやその他のがんの罹患率は、タバコを吸わない人の3倍から5倍にもなっている。動脈硬化症で心臓血管病、脳卒中なども引き起こす。WHOによればタバコ喫煙が原因で死亡する人は年間5百万人もあり、間接喫煙でも60万人が死亡している。日本でも厚生労働省によれば年間125万人、家族や周りの人の受動喫煙では6800人が死亡している。歯周病の原因にもなっている。特に女性の喫煙は妊婦の流産、早産の原因にもなり、非常に危険である。これほどの害が分かっているのに、なぜ薬事法で厳しく取り締まらないのか不思議に思う。

東北地震の折、低線量(1ミリシーベルト程)の放射線による発がん性が、それもはっきり証明されていないのに、あれほど騒がれたにもかかわらず、これほど明白なタバコの発がん性が、なぜマスコミなどで強く取り上げられないのだろうか？ タバコによる税金が減るのを恐れる国に遠慮しているのか！

考え方を改めて、タバコ喫煙で健康を害し、がんや心臓血管病、脳卒中などになる方が、よっぽど医療費を多く必要とする。タバコを吸わなければ病気になる率は激減し、医療費も激減することは明白である。

日本は麻薬の取り締まりに関しては、世界で最も厳しい国の一つである。麻薬であり、発がん物質を含むタバコを世界に先駆けて日

人の健康保険料を安くするのが近道であると思う。も生産を計画的に減少させる必要があるのでないか。それを成功に導くためには、まずタバコを吸わない

う一つは、タバコを千円ぐらいに値上げすることである。まずできることから始めてみることである。

医療費削減のためにも

は、まずタバコを吸わない